

パワーリベラメンテの展開(13)

—総合評価(2)—

1. 始めに

先般の、A氏、S氏、Y氏、F氏のご来臨に引き続き、ST氏、D氏、M谷氏にお越しいただいて、先日と同様、最近の一連の対策の成果も含めた総合評価を行っていただきました。即ち、パワーリベラメンテの効果以外に、①iPhono2 台によるアナログ再生、②512sDSD と 256sDSD の Native 再生、③CD から DSD へのリアルタイム変換再生、④光フレッツの高速化、無線ルーターの高速化、LAN ケーブルのオーディオグレードへの交換などによるベルリンフィル Digital Concert Hall 再生、⑤EMI のレコーディングモニターとそのアンプの試聴、⑥アクションパッドや ES-OT4 などアクセサリーの効果などについて総合的に確認していただきました。

2. 試聴の経過

パワーリベラメンテの使用状況としては、先日と同様、すべての機器の給電はパワーリベラメンテを接続したタップから行い、TASCAM DA-3000 だけはタップからもパワーリベラメンテを接続しています。この条件で順次以下の試聴を行っていきましました。さらに最後にタップから機器へのパワーリベラメンテの接続箇所を DA-3000 から替えて、それらの効果も確認しました。

2-1) アナログ再生

ST 氏が渋滞で遅れて到着される間、ジャズや歌謡曲などをガラード 401 と EMT XSD-15 によるアナログ再生から始めましたが、D 氏、M 谷氏とも拒否反応を示され、この条件がこれまでの最上と言う評価をされた A 氏とまったく逆の結果になりました。パワーリベラメンテに加えてアクションパッドのターンテーブルシートを使っており、これまでに一番柔らかくアンビエンスの豊かな再生音になっていることが、どうやらジャズで前にでる直接音を重視する両氏には違和感を覚えられたようです。しかしながら、クラシックをかけるとそれほど違和感はないとのことでした。

2-2) 512sDSD と 256sDSD の Native 再生

ST 氏到着後、iPhono の活用(12)—イコライザーカーブの選択(3)—でも実施したのと同じく、いくつかの 256sDSD 音源の再生と同じ 64sDSD 音源から製作された 256sDSD と 512sDSD の違いを聴いていただきました。

256sDSD と 512sDSD の違いも分かるし、256sDSD 音源の一つの Fazioli のピアノの音はスタンウェイなどと違うということも分かるとのコメントがありました。おなじジャズピアノの 256sDSD と 512sDSD のフォーマット違いでは、512sDSD のメ

リットも理解できるとのことでした。同じDSD録音で64sDSD、128sDSD、256sDSD音源を聴いてもらったところ、まったくDSDをやっていないD氏は64sDSDを、AITのDACでDSDもやっておられるM谷氏は128sDSDを採られましたが、自分としては普段から128sDSD超えに慣れてしまっていて興味深い結果になりました。

2-3) CDからDSDへのリアルタイム変換再生

次にCDから256sDSDへのリアルタイム変換再生を行いました。44.1KHzPCMと352.8KHzPCMの再生も行い、3者の音の違いを確認していただきました。D氏は44.1KHzPCMを、M谷氏は352.8KHzPCMを採られ、ST氏はDSDへのリアルタイム変換の効果も理解できるとのことでした。ここでも、直接音とアンビエンスの割合や聴く位置関係、すなわち録音の場の広さ、大ホールで聴衆として聴くか、狭い場所でジャムセッションに参加あるいは近接して聴くか等の経験を引かずってそういう判断に至るものと考えられます。

2-4) ベルリンフィル Digital Concert Hall 再生への効果

D氏からPCオーディオは面倒だ、アナログの方がシンプルだとのコメントがあり、いやアナログの方が手間がかかるとかの議論があって、一番簡単な手順で再生に至るベルリンフィル Digital Concert Hallの再生を行ってみました。皆さんご経験がなかった割には肯定的な反応があり、ベルリンフィル大ホールのホールトーンや環境ノイズが多いにも関わらず、D氏、M谷氏から拒否反応がなかったことは意外でした。思うにカメラワークと個々の楽器を狙ったマイクアレンジが巧みで視覚と聴覚が連動して、今鳴っている楽器の音がよく分かり、アンビエンスの豊かさがマスキングされ、個々の楽器の音が鮮明に意識に入ってくるのではないかと分析しています。

2-5) EMIのレコーディングモニターとUV211のアンプの試聴

EMIのレコーディングモニターのEMI DLS 529はLeak Point 1のプリとIPC AM1029のパワーアンプ(RCA 6L6からGEC KT66に換装)で駆動しています。これらはパワーリベラメンテで給電されたKOJOのタップから二次的に給電されたプロ用のタップからの給電になっています。今回、ST氏のご要望でUV211のアンプを持参されてパワーリベラメンテの効果を試してみることにしました。最初は、持参された電源ケーブルからDA-3000に使っていたパワーリベラメンテをUV211のアンプに繋ぎ替えてみましたところ、これまで他の事例で経験したと同じような変りようでした。ST氏も確かに効果ありとのことでした。ST氏自作のUV211アンプはルンダールの広帯域トランスを積み、金田式に倣ってカップリングコンデンサーを省いた回路で、力強くすっきりした音がしており、AM1029のGEC KT66シングルの音とは大きく違った音を聴かせてくれました。UV211アンプはハイエンドのシステムで聴いてみたいと思います。

さらに、パワーリベラメンテをEMT981に回してUV211のアンプには手持ちのオルトフォンやKIMBERのケーブルに繋ぎかえてみましたところ、EMT981の変化と

UV211 のアンプの変化が相殺されたような感じで大きな変化はありませんでしたが、オルトフォンのケーブルも良いのではないかという声もありました。さらに EMT981 のケーブルを元に戻し、パワーリベラメンテを EMT981 と CCV-5 にクロックを供給している GPS-777 に繋ぎかえてみましたところ、これは大きな変化があり、一番安心して聴ける状態になりました。ふたたびアナログ再生に入り、ST にご持参いただいたアナログ盤のイコライザーカーブの選択を行いました。最初にビートルズの定番のアナログをかけましたが、イコライザーカーブの選択とプリアンプのトーンコントロールで低音をブーストしていたことに気付かず、歪っぽく低音がだぶつく傾向がありましたが、これらを修正して正常になりました。

2-6) EMT981 の CD 再生、SD メモリーからの再生、YouTube 再生など

その後、スピーカーを FAL に戻して D 氏に操作をお任せして、CD 再生、Digital Concert Hall 再生、SD メモリーからの再生、YouTube 再生などを次々に行っていきましたが、CD 再生では、パワーリベラメンテを GPS-777 に繋いだこの状態が一番良いとのことでした。また、D 氏が持参された SD メモリーからの FLAC 音源を 192KHzPCM 送り出しで再生してみました。聞きやすい音がしていました。YouTube 再生もなかなか良いのではという声もあり、音の話よりも、演奏そのものに対するコメントが次々と出てきました。例えば、D 氏が気にしている日本のジャズギタリストの YouTube についてもなかなか良い演奏ですが、現在もたびたび渡米してビジネスに従事しておられる ST 氏から現地のプレイヤーの層は厚いとか、小生からもストリートパーフォーマーでも結構聴かせるとかのコメントも飛び出しました。小生も常日頃から日本のジャズオーディオと向こうの生演奏とは随分ギャップがあるように思っています。

4. まとめ

パワーリベラメンテに関しては、パワーアンプについてもその効果が認められ、また GPS-777 に対する効果も事前の検討結果が再現できました。その他、聴く方の感覚の違いがどこから来るのかの議論もあり、Digital Concert Hall から YouTube までバラエティに富む音の変化を楽しむことができました。

以上